

千葉市感染症発生動向調査情報

2021年 第53週 (12/28-1/3) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	53週	52週	51週	50週
小児科	17	16	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	27	25	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	12/28-1/3	12/21-12/27	12/14-12/20	12/7-12/13	12/21-12/27
			53週	52週	51週	50週	52週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	1
	咽頭結膜熱		0	2	1	1	28
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	5	13	7	88
	感染性胃腸炎		5	21	28	37	213
	水痘		1	5	6	8	20
	手足口病		0	2	1	0	2
	伝染性紅斑		1	2	3	0	3
	突発性発しん		4	6	9	12	45
	ヘルパンギーナ		0	0	0	2	0
	流行性耳下腺炎		0	1	0	4	5
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		3	0	2	0	2
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		1	2	0	0	10
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(245件)

※新型コロナウイルス感染症244件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	80歳代	IGRA検査等	新型コロナウイルス感染症	男女	10歳代~90歳代	病原体遺伝子の検出等

・第53週は、結核1件(155)、新型コロナウイルス感染症244件(1800)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

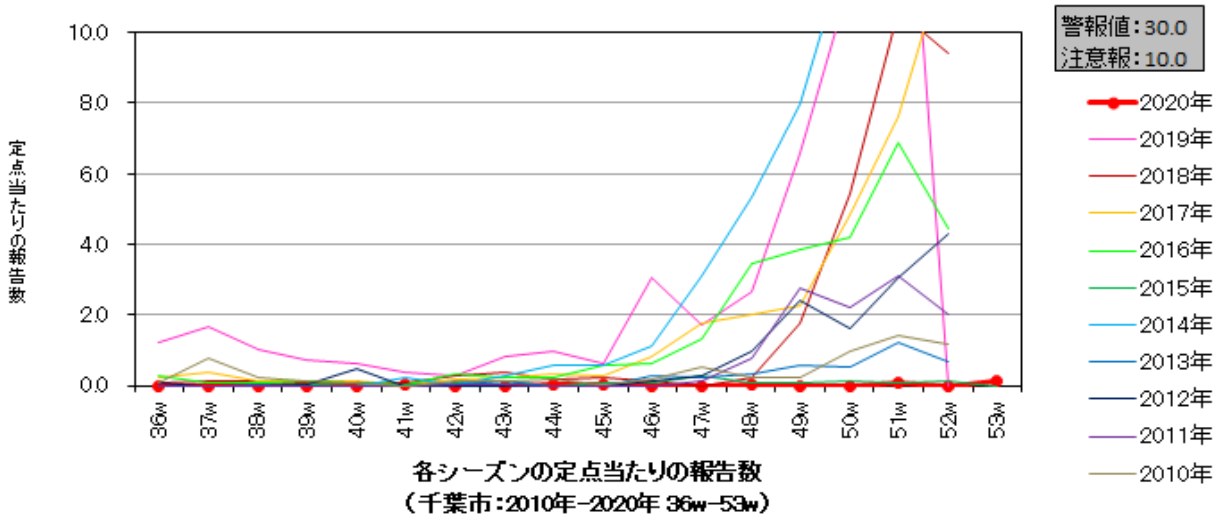
定点当たり報告数 第53週のコメント

いずれの感染症においても、第52週と同等のレベルで推移している。

■ トピック ■

<インフルエンザ>

全国レベルの定点当たりの報告数は、今シーズン開始以来過去10年の同時期と比べると非常に少ないレベルで推移しており、第52週は0.01で同様となっています。都道府県別では、発生の報告があったのは47都道府県中28都道府県(59.6%)で、京都府(0.1)が最も多くなっています。千葉県の定点当たりの報告数は0.01で、全国レベルとほぼ同等となっています。千葉市の第53週は定点医療機関からの報告が3件あり、定点当たりの報告数は0.11となりました。今シーズンである2020年第36週から第53週までの累積報告数は9件で、男性66.7%(6件)、女性33.3%(3件)となっており、年齢階級別では20歳代3件、10歳代後半2件の順で多くなっています。



<感染性胃腸炎>

全国レベルの定点当たりの報告数は、インフルエンザと同様に今シーズン開始以来過去10年の同時期と比べると非常に少ないレベルで推移しており、第52週は3.17で同様となっています。都道府県別では、熊本県(18.48)、佐賀県(11.61)、鹿児島県(10.98)の順に多くなっています。千葉県の定点当たりの報告数は1.69で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第53週は前週から減少し0.29となりました。過去に第53週があった2015年(4.13)と比べると非常に少なくなっています。今シーズンである2020年第36週から第53週までの累積報告数は429件で、男性53.8%(231件)、女性46.2%(198件)となっており、年齢階級別では1歳(19.8%:85件)、2歳代(12.4%:53件)、3歳代(11.0%:47件)の順で多くなっています。

